ともに，関連する技術を身に付けるようにする。

(2) デザインに関わる材料の利活用や加工法に関する課題を発見し，技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。

(3) デザインに関わる材料の利活用とよりよい生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2　内　容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) デザインと材料

ア　生活と材料

イ　材料の種類と特性

ウ　デザインにおける材料の利活用

(2) 無機材料の特性と加工技術

ア　金属材料

イ　セラミック材料

ウ　ガラス

(3) 有機材料の特性と加工技術

ア　プラスチック

イ　木材

(4) デザインの可能性を広げる材料と加工技術

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。

ア　実際のデザイン事例，産業現場の見学及びメディア教材の活用などを通して，材料を利活用する方法について，具体的に理解できるよう工夫して指導すること。

(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。

ア　〔指導項目〕の(1)については，生徒や地域の実態，学科の特色等に応じて，適切な題材を選定し，材料の特性を生かしたデザインを扱うことができること。

イ　〔指導項目〕の(2)については，無機材料の活用方法を扱うこと。

ウ　〔指導項目〕の(3)については，竹材料，繊維と皮革類，紙類，塗料と色材及び接着剤などの有機材料についても活用する方法を扱うこと。

第59　デザイン史

1　目　標

工業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，造形とデザインの鑑賞により創造的かつ効果的なデザインに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) デザインについて歴史的な背景を踏まえて理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 歴史的なデザイン事例からデザインに関する課題を発見し，技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。

(3) 歴史的なデザイン事例と造形方法を踏まえて独創的にデザインする力の向上を目指して自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2　内　容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) 日本のデザイン

ア　古代の生活と造形

イ　中世の生活と造形

ウ　近世の生活と造形

エ　近代の生活とデザイン

(2) 西洋のデザイン

ア　古代の生活と造形

イ　中世の生活と造形

ウ　近世の生活と造形

エ　近代のデザインの成立と展開

(3) 現代のデザイン

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。

ア　幅広い時代のデザイン事例，産業現場の見学及びメディア教材の活用などを通して，デザインが地域，生活及び産業などに対して果たしてきた役割について，具体的に理解できるよう工夫して指導すること。

(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。

ア　〔指導項目〕の(1)については，日本における歴史的なデザイン活動の内容と関連する技術を扱うこと。また，東洋のデザインについても扱